

JUST NOW JATS

特定非営利活動法人 日本胸部外科学会



14

2012-01

CHALLENGE FOR THE FUTURE!

年頭の挨拶

理事長就任にあたっての所信

理事長 坂田 隆造

あけましておめでとござい
います。

会員の皆様におかれまして
も、2012年の新春はこと
のほか感慨深いものがあるう
かと推察申し上げます。昨年
3月11日の東日本大震災で思
い知らされた、凄まじい自然
の破壊力、被害の甚大さ、被
災地の苦難。衝撃のあまりの
大きさに日本は再び立ち上が
れるのかと悲観に覆われまし
た。しかし直後から国中で、
世界から溢れるように広がっ
た力強い支援の輪は、倫理の
欠如を言われて久しい現代人
も惻隱の情までメルトダウン
した訳ではなかったことを示
して、復興を期する日本の將
来に希望をいだかせるもので
ありました。一方、人々や民
間企業の腹の据わった力強い
復興への足取りとは対照的
に、政治の混乱と無策はあま
りにも無様であり、福島原発
事故及びその対応で露呈した
日本中枢の陰湿な醜態さは国
民の復興への意気込みを甚だ
しく削ぐものでした。共通す
るのは立場を弁えぬ不誠実で
す。

さて2012年新春、我々
はにかかわらず、今年こそ
喜ばしい年なれと年頭に立っ
ています。

田林理事長の任期満了に伴
い、理事会にて理事長に選任
され、第64回日本胸部外科学
会学術集会の総会にて承認い
ただき、ありがとうございます
ました。伝統ある本学会の理事

長を拝命し、光栄であると同
時にその任の重さを痛感して
おります。田林先生は基本理
念として、心臓血管外科・呼
吸器外科・食道外科の3分野
総合学会としてその特徴を充
実させ、学会員の期待に応え
ると共に、日本の医学会を先
導する学会を目指すことを掲
げられました。そして理念を
実現すべく数々の方策を立案
されました。これらの方策は
すべてにおいて前進または進
化し、あるものは実現し、あ
るものはその途上にありま
す。私もこの基本理念を踏襲
し、実現に向けて邁進したい
と決意しております。この理
念を言いかえると、1. 学会
員の期待に応えるような形
で、2. 日本の医学会を先導
する学会を目指して、本学会
を充実させる、ということに
なります。そして本学会の本
質を成すものは定期学術集会
と学会誌であります。

1. 定期学術集会の質の向上

学会の最大事業である定期
学術集会の質を高めていくこ
とが揺るぎない第一義の目標
となります。

定期学術集会の演題採択率
はここ数年厳しさを増してお
り、演題応募者には高いハー
ドルとなっております。しかし
その分、発表者は大きな喜び
と誇りを持つようになってお
り、採択論文の質も年々向上
しています。これまでの学術
集会に対する学会の取り組み

が正当であった証であり、定
期学術集会の質の向上は今後
も重要な課題であり続けま
す。

さて、これまで学術集会の
ありようは学術集会委員会の
事項として扱われ、教育プロ
グラムは研究・教育委員会
が、Post graduate courseの
AATS、EACTS講師は国際
委員会が、というように該当
委員会がその都度対応してい
ました。しかし本学会の学術集
会委員会は本学会学術集会の
過去2〜3年の会長経験者、
同学術集会幹事経験者、他の
関連学会学術集会の会長経験
者などで構成されており、本
学会学術集会を経年の連続的
な事業としてスムーズに継承
させるには有益でありました
が、学術集会のあり方そのも
のを考えるには不十分であっ
たように思われます。なによ
りも将来を担う若手の意見が
反映されにくく、委員会構成
を見直して本来の学術集会委
員会の役割に継続的に集中的
に打ち込める体制をつくりた
いと考えております。

2. エビデンスの発信・学会誌の質の向上

この目標は本学会にとって
1.の学術集会の質の向上とこ
もに車の両輪となるものです。
本学会の手術成績は欧米を
陵駕するまでに向上したのも
の、エビデンスの発信力はま
だまだ発展途上であり、
日本胸部外科学会雑誌は英文

とすることで質向上の第一歩
を踏み出しましたが、更なる
努力が必要です。日本の胸部
外科関係の実力を示すことが
目的なら、本学会構成員がそ
れぞれの立場で諸雑誌にエビ
デンスを発信し続けることも
有益ですが、本学会にとって
重要なことはそれらが学会誌
を通して発信されるようにな
ることです。学術集会での発
表が構成員に喜びと誇りをも
って評価されるのと同様に、
論文の学会誌掲載がその質の
証明であると認識されるよう
にすることが本学会の地位向
上に必須の事業です。このこ
とはまた欧米の関係学会との
関係を対等なものにする本質
的な方策でもあります。

会誌編集委員会では三好前
委員長のもと精力的にこの問
題に取り組み、進むべき道は
明示されました。学会誌の質
の向上を最大の目標として前
進したいと思っております。

3. 学術調査

本学会は構成3分野の手術
内容と症例数に関する学術調
査を1986年より開始して
既に25年のデータ収集を積み
重ねています。この学術調査
の示すところは、3分野の手
術成績の着実な向上であり、
最近の成績は欧米を陵駕する
ものとなっております。本学会
の診療技術向上を目ざした絶
えざる努力の賜物であり、
我々は誇りを持って世に公表
していくべきでしょう。この
ことは正当な評価に立脚した
構成員の地位向上に資するこ
ともつながります。学術調
査のもう一つの成果は診療の
クオリティコントロールの役
目も果たしてきたことです。

4. 医療安全・倫理

胸部外科学と医療技術の発
展の美名のもとに、医療安
全・倫理が置きざりにされて
はなりません。医学は学問と
しての、あるいは技術として
の自律的發展に身を委せて走
り続けるものでなく、成果が
国民の健康と福祉に寄与する
かどうかを不断に検証すべき
宿命をおつています。検証の
ためには、進歩と称される変
化に足踏みする忍耐と自らを
省みる勇気が必要です。医療
事故を防ぎ、事故には誠実に
対応し、原因を真摯に探し求
めて再発防止に努めることの
重要さは、最近の本学会医療
安全講習会でも常に取り上げ
られていますが、このことは
本学会員が医療に内包される
社会的責務―忍耐と勇気―を
心底認識する第一歩を提示す
るものであり、重要な施策と
して今後も継続します。

5. 専門医制度

本学会は「胸部外科専門医」
制度を有しませんが、心臓血
管外科専門医、呼吸器外科專
門医、食道外科専門医の3つ
の専門医制度がかかわってい
ます。この関与の度合い・重
要性は一つに本学会の質に依
存しており、それは、本学会
の関わる専門医制度の信頼
度につながるものであります。
これらの専門医制度は、そ
れぞれの関連学会との協同で
設立された心臓血管外科専門
医認定機構、呼吸器外科専門
医合同委員会、日本食道学会
で構築・整備されて日本で最
も充実した専門医制度になり
つつあります。今後は専門医
の質、専門医を目指す修練医
の教育の質の評価が課題と考
えます。

6. 胸部外科医の処遇改善

処遇改善委員会で胸部外科
医の処遇実態調査が行われ、
政策検討委員会でも専門医に
対するドクターフィーに関し
ての提言を行ってまいりました。
しかし具体的成果を得るには
まだ道半ばで、今後も継続的
に努力していく所存です。胸
部外科医の処遇改善の一環と
しても位置付けられていた、
チーム医療推進委員会の「特
定看護師」創設へ向けての活
動が実を結びそうです。「看
護師特定能力認証制度」の2
013年度開始を目指し、本
年の通常国会に厚労省より法
案が提出される見込みです。
この法案が実現するとチーム
医療の実質が充実して医療の
質が向上し、胸部外科医は本
来の業務に時間を割くことが
できると期待されます。

これからの理事長としての
任期2年間、事業の継続と改
革を合言葉に各委員会の知恵
を借りながら本学会の発展に
尽したいと考えております。
会員の先生がたのご意見、ご
支援をいただき皆様に信頼さ
れ満足いただけるような学会
にすることを旨とし、新年の
ご挨拶と所信表明といたしま
す。



坂田隆造
(京都大学大学院医学研究科 器官外科学講座
心臓血管外科 教授)

1975年3月 京都大学医学部卒業
1975年6月 京都大学医学部第二外科入局
1982年7月 Institut Mediteraneen de Cardiologie, Unite
de Chirurgie Cardiovasculaire, Clinique de
la Residence du Parc (France)
1984年4月 Centre Medico-chirurgical de la Porte de
Choisy Unite de Chirurgie Cardiovasculaire
(France)

1985年6月 社会保険小倉記念病院心臓血管外科 (医長)
1988年6月 国家公務員等共済組合連合会熊本中央病院
心臓血管外科 (医長)
2000年1月 鹿児島大学医学部外科学第二講座教授
2008年8月 京都大学大学院医学研究科器官外科学講座
心臓血管外科学教授
2011年4月 京都大学医学部附属病院副院長
趣味：ゴルフ、読書 好きな言葉：空